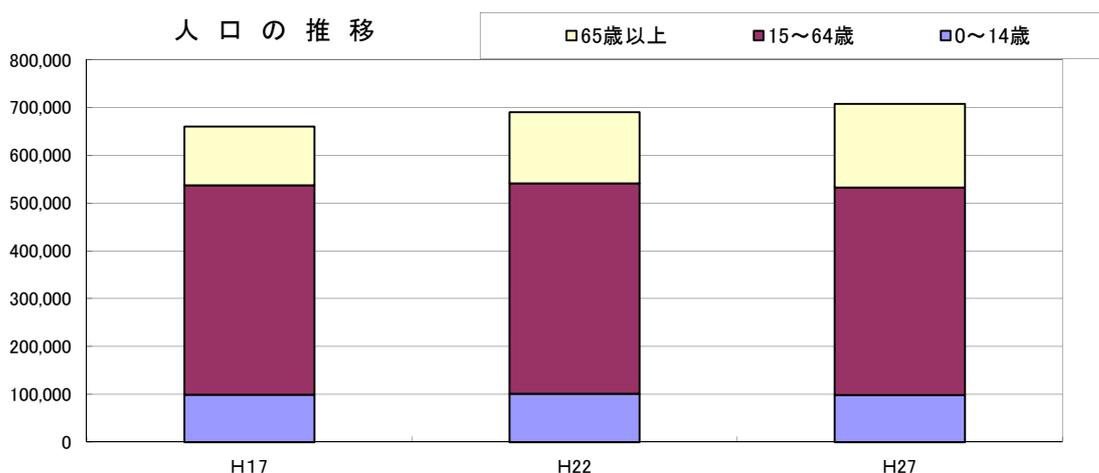


I 都市活動の動向

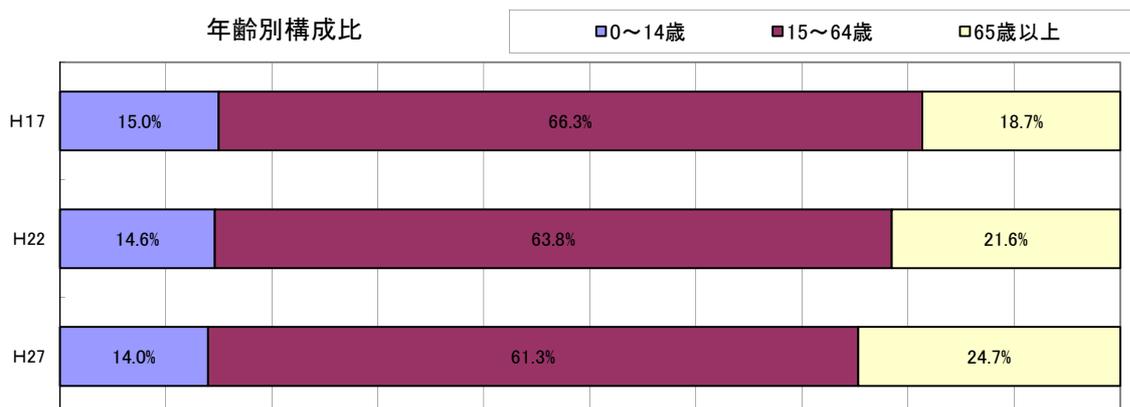
●人口の推移、年齢別構成比

年次	総数	年齢別人口			構成比		
		0～14歳	15～64歳	65歳以上	0～14歳	15～64歳	65歳以上
H17	660,422	99,009	438,049	123,364	15.0%	66.3%	18.7%
H22	690,396	100,923	440,538	148,935	14.6%	63.8%	21.6%
H27	707,543	98,821	433,775	174,947	14.0%	61.3%	24.7%

注)岡山市統計月報12月号による。



・岡山市の人口は、平成21年に政令市へ以降後も増加を続け、平成26年12月現在約70万6千人となっている。



・人口を年齢別構成比で見ると、年少人口(0～14歳未満)が減少、高齢人口(65歳以上)が増加しており、本市においても全国と同様に少子高齢化が進んでいる。

●地区別面積、人口、人口密度の状況

地区別	人口				面積 (km ²)	人口密度(人/km ²)		
	平成17年	平成22年	平成27年	H27/H17		平成17年	平成22年	平成27年
北区役所		302,685	294,417	-	450.70	-	672	653
旧本庁(※)	419,805	433,261	428,113	1.02	-	2,984	-	-
一宮	21,545	21,115	21,337	0.99	-	756	-	-
津高	19,709	20,035	20,164	1.02	-	400	-	-
高松	16,988	17,464	17,701	1.04	-	707	-	-
吉備	23,432	23,858	26,009	1.11	-	2,136	-	-
足守	7,446	7,151	6,686	0.90	-	107	-	-
御津	10,111	9,738	9,447	0.93	-	88	-	-
建部	-	6,075	5,782	-	-	-	-	-
中区役所	-	142,237	145,960	-	51.25	-	2,773	2,848
東区役所	-	96,948	96,696	-	160.53	-	604	602
西大寺	65,626	65,121	65,412	1.00	-	721	-	-
上道	16,190	16,612	16,314	1.01	-	591	-	-
瀬戸	-	15,215	14,970	-	-	-	-	-
南区役所	-	167,714	170,470	-	127.48	-	1,316	1,337
児島	6,713	6,567	6,414	0.96	-	334	-	-
妹尾	14,349	14,439	14,850	1.03	-	2,260	-	-
福田	10,237	10,534	10,921	1.07	-	1,709	-	-
興除	14,234	14,007	14,409	1.01	-	829	-	-
藤田	12,505	12,548	13,243	1.06	-	562	-	-
灘崎	15,856	15,844	15,771	0.99	-	514	-	-
計	674,746	709,584	707,543	1.05	339.26	1,025	898	2,086

注) 岡山市統計月報12月号による。

※旧本庁には、現在の中区役所、南区役所管内も含む。

地区別	総数	男	女	0～14歳		15～64歳		65歳以上	
				人口	構成比	人口	構成比	人口	構成比
北区	294,417	141,975	152,442	39,908	13.6%	183,993	62.5%	70,516	24.0%
中区	145,960	69,114	76,846	21,660	14.8%	88,948	60.9%	35,352	24.2%
東区	96,696	46,103	50,593	12,598	13.0%	56,448	58.4%	27,650	28.6%
南区	170,470	82,825	87,645	24,655	14.5%	104,386	61.2%	41,429	24.3%
計	707,543	340,017	367,526	98,821	14.0%	433,775	61.3%	174,947	24.7%

注) 岡山市統計月報12月号による。

- ・人口の動向を地区別で見ると、平成17年から平成22年にかけては、ほぼ横ばい状態である。
- ・人口密度は、区役所ごとにみると、中区役所管内が一番高い。

●常住人口、昼間人口、15歳以上従業者及び通学者数

	常住人口 (夜間人口)	昼間人口	常住人口100人 当たりの昼間人口	15歳以上従業者及び通学者						
				岡山市で従業・通学			岡山市に常住			流入超過数
				総数	市内常住	他市町村から流入	総数	市内で従業・通学	他市町村へ流出	
H12年	626,500	675,325	107.8	399,094	312,604	86,490	350,399	312,604	37,795	48,695
H17年	671,562	710,875	105.9	399,121	316,385	82,736	360,236	316,385	43,851	38,885
H22年	709,584	739,068	104.2	403,186	311,407	91,779	374,187	313,407	60,780	30,999

注) 国勢調査結果による。

●常住地による15歳以上従業者及び通学者数

	就業・通学者総 数①	岡山市に常住する15歳以上の従業者			岡山市に常住する15歳以上の通学者			岡山市で 従業・通学 ②+④	市外への 通勤・通学 ③+⑤=⑥	市外への 通勤・通学率 ⑥/①(%)
		総 数	市内で従業②	市外で従業③	総 数	市内へ通学④	市外へ通学⑤			
総数	374,187	313,407	278,063	47,873	41,609	35,344	5,207	313,407	53,080	14.2%
北区	164,224	142,759	118,709	18,011	21,465	18,392	2,070	137,101	20,081	12.2%
中区	73,625	66,278	57,458	8,467	7,347	6,475	458	63,933	8,925	12.1%
東区	50,288	45,251	36,676	8,438	5,037	4,248	590	40,924	9,028	18.0%
南区	86,050	78,290	65,220	12,957	7,760	6,229	1,528	71,449	14,485	16.8%

注) 国勢調査結果による。

●岡山市への通勤通学の状況

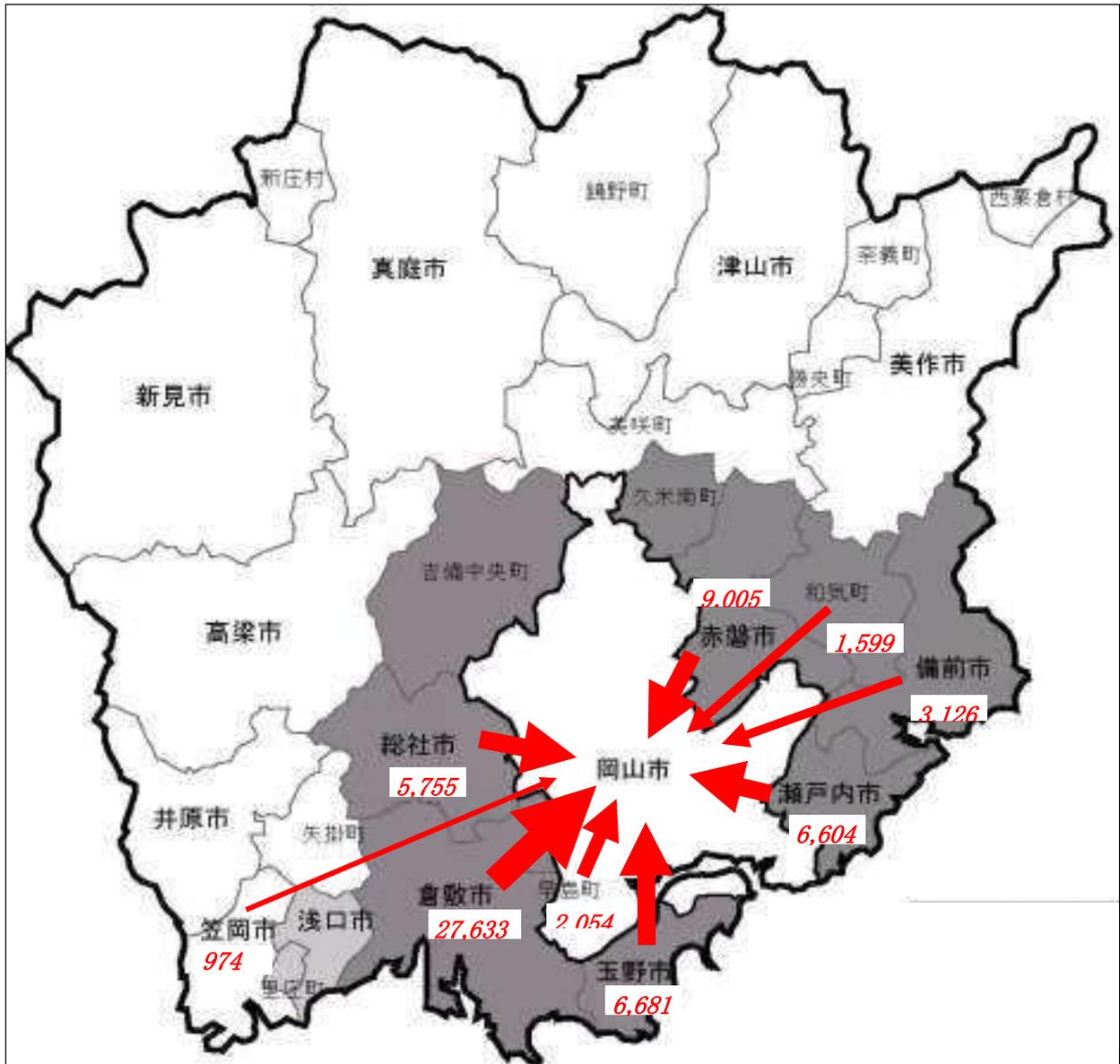
市町村名 (旧市町村名)		平成17年			平成22年		
		常住地従業者 通学者	通勤 通学者数	通勤通学率	常住地従業者 通学者	通勤 通学者数	通勤通学率
岡山市	(建部町)	2,881	1,200	41.7%	平成19年合併		
	(瀬戸町)	7,095	2,811	39.6%	平成19年合併		
倉敷市		227,795	29,058	12.8%	221,384	27,633	12.5%
津山市		50,630	806	1.6%	48,247	847	1.8%
玉野市		31,338	7,635	24.4%	29,401	6,681	22.7%
笠岡市		24,723	1,058	4.3%	22,857	974	4.3%
井原市		19,829	393	2.0%	19,138	337	1.8%
総社市		32,681	6,127	18.7%	31,634	5,755	18.2%
高梁市		16,999	722	4.2%	14,881	631	4.2%
新見市		15,779	268	1.7%	14,405	239	1.7%
備前市		17,454	3,057	17.5%	16,149	3,126	19.4%
瀬戸内市		17,379	6,738	38.8%	16,613	6,604	39.8%
赤磐市		20,483	7,876	38.5%	19,672	9,005	45.8%
真庭市		21,917	245	1.1%	19,966	212	1.1%
美作市		13,220	203	1.5%	12,165	201	1.7%
浅口市	(金光町)	5,526	597	10.8%	15,505	1,278	8.2%
	(鴨方町)	8,606	701	8.1%	平成18年合併		
	(寄島町)	2,946	193	6.6%			
和気町	(佐伯町)	1,549	297	19.2%	6,304	1,599	25.4%
	(和気町)	5,356	1,100	20.5%	平成18年合併		
早島町		5,592	2,190	39.2%	5,432	2,054	37.8%
里庄町		5,091	401	7.9%	5,044	347	6.9%
矢掛町		6,830	423	6.2%	6,333	408	6.4%
久米南町		2,171	308	14.2%	2,017	447	22.2%
美咲町		6,667	266	4.0%	6,158	345	5.6%
吉備中央町		5,681	852	15.0%	5,175	784	15.1%

注1. 国勢調査結果による。

2. 15歳以上の通勤通学者。

3. 通勤通学率＝{(岡山市への通勤通学者数) / (常住地従業者・通学者)} × 100

●通勤・通学の状況図



注) 平成22年における流入者(1,000人以上)を示した。